



林業士 リリースコラム

このコーナーでは、
林業士の活動状況などを
リリース形式でお届け
していきます

一昨年から上伊那林業士会会長と県林業士会理事を務めております矢島秀樹です。本職は建設業で在来工法の建築大工ですが、間伐、伐採などの仕事もあり林業にも携わっております。私の祖父、父親が大工で、また父親は伐採なども行っており、その姿を見て自分でもやりたいと思えば家業の矢島建設に入り現在に至ります。

そもそもなぜ林業士を目指したのかというと、御柱祭の杣職（そましやく）に携わりたいと思ったからです。杣職とは御柱の根離し（伐採）をする人達を指します。林業士を取り地域の中核的人材になれば、地域の方々とつながりやすくなり、信頼関係ができ、後継者の育成にも貢献できるからです。

ここで少し御柱の話させてください。自分の地区にも諏訪大社と同様に御柱祭があり、諏訪の一年後、つまり今年の5月の連休に

行われます。今回担当する柱は一之柱と四之柱で、目通り（目の高さ）の位置で測った周囲長）は一之柱が3m、四之柱が2・2m。根離しも自分達で行います。今回その杣長（そまぢやう）をやらせて頂いて、同職の皆様と無事安全に根離しする事が出来ました。その職の中には同じ上伊那林業士会の3人の仲間がおり、同じ地区に住んでいて担当する柱も一緒です。

本題に戻りますが、上伊那林業士会の活動としては主に上伊那農業高校の間伐実習になります。実習生は、以前は緑地創造科の40名程度でしたが、現在はコミュニケーションデザイン科里山コースの20名程度となっています。講師1人につき4名程度に分かれて行います



チェーンソーの掛け方を教えています

ので5班位になりますね。実習の目的は各生徒のチェーンソーの操作・整備、立木の伐倒技術、枝打ち技術の習得です。2日間にわたり行いますが実習内容などは各講師に任せてあるのでさまざまです。自分の教え方として、少しでも多くチェーンソーを生徒に使わせてあげたいと思い、基本的操作説明の後は切らせるようにしています。いつもそうですが1人1、

2本伐倒させていきますね。2日目の午後になればかなり技術が上達するので、時間があれば簡単なイスを制作し、学校に持って帰る生徒もいますね。また、本業が大工なので、この立木は何に使った方が良いかなど、独自の視点からも話をしていきます。この実習を通



伐倒方向の向きなど説明中です

じて、生徒達が「林業って面白い」と、少しでも林業に魅力を感じて、将来の就職先の選択肢の1つになれば良いと思っています。こういった実習は、後継者の育成はもちろんです、自分自身のスキルアップにも繋がりますので、引き続き地域での活動を頑張っていきたいと思っています。

プロフィール

矢島秀樹 49歳
長野県林業士会理事
上伊那林業士会会長
池田工業高校建築科、松本技術専門学校建築科卒業後、家業の矢島建設に従事し現在に至る。
建築経歴30年
林業経歴20年
平成25年3月 林業士 認定



林業士とは？

地域の森林林業現場で主体的に活動する方を増やし、林業の活性化を図るために昭和48年から長野県が認定しているもので、県下各地で「地域林業の中核的人材」として活躍しています。